

# 令和3年2定 一般質問 開催状況

開催年月日 令和3年6月23日

質問者 日本共産党 菊池 葉子 議員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質問要旨	答弁要旨
<p><b>五 地方交通について</b></p> <p><b>(一) 並行在来線について</b></p> <p>道はこのほど北海道新幹線札幌延伸に伴う並行在来線について、経営分離後の交通確保方策を示しましたが、バス転換案が出されたことに対して、沿線自治体住民からは、道は鉄道存続を放棄したのかとの声が聞かれます。</p> <p>新幹線着工の条件として、沿線自治体が同意したのは路線の存続を前提とした経営分離であり、「整備新幹線の基本方針」でも、並行在来線の維持の在り方について、地域の足として、当該地域の力で維持することが基本となっています。</p> <p>なぜ、道は踏み込んだバス転換案を示したのですか。並行在来線は維持すべきと考えますが、併せて知事の見解を伺います。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>鉄路がなくなれば高校に通う公共交通手段がない地域がある現状を知事はご存じでしょうか。2002年に道路運送法が改正され、バス事業者の路線撤退が許可制から届出制になったことで、採算性がない路線からの撤退が相次いでいることも、住民のバス代替え案への不安を増大させています。</p> <p>協議会のブロック会議や幹事会において、地域交通の確保にあたっては、住民の意見を適切に反映させた上で協議を進めることが何よりも大事なことです。バス転換ありきでの選択を住民に迫るのではなく、鉄路を存続させるよう、地域協議を進めていくことを強く指摘します。</p>	<p><b>【知事】</b></p> <p>並行在来線についてであります。北海道新幹線の札幌開業に伴い、JR北海道から経営分離される函館線の函館・小樽間については、道と沿線自治体で構成する北海道新幹線並行在来線対策協議会において、第三セクターによる鉄道運行のほか、バス転換も含めた地域交通の確保方策について検討を行っております。</p> <p>この度、協議会においては、沿線自治体の方々からのご意見を踏まえ、第三セクターによる鉄道運行とした場合、バスによる運行とした場合、輸送密度が高い一部の区間を鉄道運行とし、それ以外の区間をバス運行とした場合、の3つのパターンでの初期投資や収支予測などの調査結果を取りまとめたところでございます。</p> <p>道としては、今後、この調査結果を基本として、協議会のブロック会議や幹事会において、様々な角度から検討を進めることとしておりまして、国や道、市町村の適切な役割分担のもと、持続可能な地域交通の確保に向けて取り組んでまいります。</p>